

2019(令和元)年度

障害者スポーツを取巻く 社会的環境に関する調査研究

— 地域現場、障害者スポーツ選手キャリア、大学に着目して —

第1章

地域現場における
実態調査

第2章

障害者スポーツ選手の
キャリア調査

第3章

大学の先進的
取り組み調査

第4章

シンポジウム抄録集

第5章

チャレンジ!ユニ★スポ
(体験会ケーススタディ)



はじめに

YMFS 調査研究

障害者スポーツ・プロジェクト・リーダー

藤田紀昭

いよいよ 2020 東京パラリンピックが迫ってきた。本研究プロジェクトは 2013 年に東京大会開催が決まる前年の 2012 年度から、大学における障害者スポーツの実態、障害者スポーツ選手のキャリア、指導者や競技団体の実態、パラリンピアンへの認知度やメディアでの障害者スポーツの取り上げ方、そして、地域現場の実態などについて継続的に研究を進めてきた。

この 7 年間で、障害者スポーツのトップ選手を取巻く環境は大きく変化した。個人の自宅を事務所としていた競技団体は一時的とはいえ、東京都内の一等地に事務所を構え、強化に取り組み、自費で大会や合宿に参加していた選手の多くは国や自治体からの助成を受けて海外遠征に出かけられるようになった。さらに以前は使用することが難しかったナショナルトレーニングセンターで医科学サポートを受けながら強化に取り組めるようになった。本調査プロジェクトが立ち上がった時に、たった 7 年間でこれほどの変化があると誰が予想しただろうか？一方で、地域においてはパラリンピック開催の追い風を受けながらも障害者スポーツ関係者が地道に、熱心にスポーツの普及活動に取り組んでいるにもかかわらず、2012 年と比べて飛躍的な環境改善が見られているとはいいいがたい。本調査プロジェクトはこうしたトップ選手を取巻く現状と地域の現状の一端をこれまで明らかにしてきた。今年度も引き続きこれらの現状を報告する。

第 1 章、地域現場における実態調査では、岩手県の実態について報告している。全国障害者スポーツ大会開催後の状況を知ること、東京から離れた地域の状況、政令指定都市以外で障害者スポーツ協会が設立されていることなどから岩手県を対象としてフィールド調査を実施した。東日本大震災の被災地区における卓球バレーの導入の様子など、地域での障害者スポーツの普及の実態について報告している。

第 2 章、障害者スポーツ選手のキャリア調査に関しては 9 名の選手の個人史を追う形でスポーツを始めるに至った経緯や継続の状況を明らかにした。障害者がスポーツを始めるに際しては様々な人や機関の支援を受けていることが明らかになった。しかしながら、この点に関しては保険によるリハビリ期間の短縮など国の制度変更等により、現

在十分な支援が受けられていない可能性が考えられる。引き続き調査により示していきたい。

第3章は、昨年度から引き続き先進的な取り組みを行っている大学の実態を報告する。今年度調査をさせていただいた、金沢星稜大学、大阪体育大学はいずれも障害者スポーツに関する大学の授業と地域での障害者スポーツに関する実習を連携させて、学生たちに障害児・者や運動の苦手な子どもたちに対応する力を身につけさせようとしている点に特徴が見られた。

第4章は今年度実施したシンポジウムについて報告している。シンポジウムのテーマは「障害者スポーツ競技団体の課題と展望について」である。パラリンピック競技団体、パラリンピック競技ではない競技団体の現状、課題、今後の展望について当日熱心に議論された様子が報告されている。

この他、「チャレンジ！ユニ★スポ」と銘打って静岡県で実施した障害者スポーツ体験の様子についても掲載している。これは(公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団と(公財)静岡県障害者スポーツ協会のコラボレーションによって実施したケーススタディである。小・中学校の児童・生徒 1000人以上が参加したイベントについて報告している。同時に実施した調査については次年度の報告書に掲載予定である。

本報告書が<2020>に向けて変化しているわが国の障害者スポーツの世界、それを取巻く地域や社会の実態を映し出す貴重なメディアとなれば勿怪の幸いである。

最後に、本調査研究プロジェクトにご協力いただいた選手、競技団体、大学関係者、静岡県教育委員会、小・中学校の先生と子どもたち、調査を側面から支えてくださった(公財)日本障がい者スポーツ協会、(公財)笹川スポーツ財団など、様々な障害者スポーツ関係者の皆さんに心からお礼申し上げます。

	2012(H24)	2013(H25)	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R1)
大学における障害者SPの現状	○		○		○	○	○	○
パラリンピアンスポーツキャリア		○						
障害者スポーツ選手のスポーツキャリア								○
パラリンピック指導者の現状		○						
障害者スポーツ競技団体活動		○					○	
障害者SP選手発掘育成システム			○					
パラリンピアン社会的認知度			○		○		○	
ジャバラ選手のスポーツキャリア				○				
パラリンピックTV放送					○			
地域現場の実態						○	○	○
障害者SP関連CF状況						○		
チャレンジ！ユニ★スポケーススタディ								○

■目次

はじめに	1
第1章	
地域現場における実態調査	5
第2章	
障害者スポーツ選手のキャリア調査	48
第3章	
大学の先進的取り組み調査	80
第4章	
シンポジウム抄録集	87
第5章	
チャレンジ！ユニ★スポ（体験会ケーススタディ）	101
あとがき	108
附録 各調査 調査票	109

■ 障害者スポーツ・プロジェクト

リーダー	藤田紀昭	日本福祉大学スポーツ科学部	教授
メンバー	小淵和也	(公財) 笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所	政策ディレクター
	河西正博	同志社大学スポーツ健康科学部	助教
	齊藤まゆみ	筑波大学体育系	准教授
	中森邦男	(公財) 日本障がい者スポーツ協会 日本パラリンピック委員会	参事
監修	浅見俊雄	東京大学・日本体育大学 (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	名誉教授 理事
事務局	大庭義隆	(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	
	尾鍋文光	(公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団	